

Olympic  
Movement

<平成27年度 ハローオリンピズム事業>

# オリンピック教室

実施報告書

仙北市立桜木内中学校



公益財団法人日本オリンピック委員会



現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 協 力** : 公益財団法人 JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成27年4月～平成28年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 30校程度
- 地 域** : 関東近郊及びJOCパートナー都市の中学校を基本とする
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
 ※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



## 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動  
（作戦タイムなどを設け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場した経験等を通して、国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を自身の体験をもとに分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に生かせるような学習内容

## 座学の時間

挨拶（5分）

自己紹介（5分）

オリンピックの話（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



座学での学習内容の  
確認



写真・映像などを使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験  
に基づく「オリンピックの  
価値」などについて話す



グループ（個人）ワーク  
発表も行う



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成27年7月2日 (木)
  - 場 所 : 仙北市立桜木内中学校
  - ク ラ ス : 2年 (8名) ※3学年 (32名) 合同で実施
  - オリンピアン : 鶴岡 剣太郎 先生 (スキー/スノーボード)
  - 授業のながれ : 運動の時間 (5時限)
1. 自己紹介～授業の目的確認 等



- ・自己紹介から授業の目的を確認 (オリンピックに込められた願いや、日常生活にどう活かせるかを考えてみる)。
- ・授業を進める上での3つの約束事 (①何事も全力でやる、②仲間と協力する、③ルールを守って人の話をよく聞く)を確認し、授業をスタート。

2. 準備体操 等



- ・全員ダッシュで体育館を1往復した後、手首・足首の回旋などのストレッチ。
- ・クラス全員でじゃんけん勝ち抜けと、3グループに分かれてしっぽり鬼を実施。

### 3. 主運動 等



- ・3グループに分かれて大縄跳び（8の字跳び）を実施。90秒以内に連続して跳んだ回数を競う。
- ・1回戦終了ごとに集合して、結果発表と各グループごとに工夫した点等を発表。その後30秒の作戦タイムを設け、全3回戦を実施。
- ・全員が内側を向き手をつないで円になり、20秒以内につないだ手を離さずに全員が外側を向く人間知恵の輪を実施。
- ・全員が40秒以内に一言も話さずに誕生日順に一列に整列する。

### 4. まとめ 等



授業の冒頭で決めた3つの約束が守れたかを確認。

次の授業では、運動の時間に感じたことを踏まえて学習してもらおうと予告して、授業を終了。



■授業のながれ：座学の時間（6時限）

1. オリンピックの話、自己紹介（映像、写真 etc）と授業の目的を確認 等



- ・授業のはじめに「オリンピックに対するイメージ」を生徒に質問。
- ・ピエール・ド・クーベルタンが「スポーツが人間が生きていく上で必要不可欠なものである」との考えのもと、近代オリンピックを復興させた歴史について触れた。
- ・自身の映像、写真等をみながら、トリノオリンピックを振り返り、人間にとって「バランス力」がいかに大事かを説明。

2. オリンピックの価値を伝える 等



3つのオリンピックバリュー（価値）について、自信のエピソードを交えながら説明。

- ①エクセレンス＝卓越（全力、本気）…全力でやっても勝てないこともあるが、そこであきらめずに継続することが大切。
- ②フレンドシップ＝友情（使命感、責任）…自分をいつも遠くから見守ってくれた人の言葉で、心が熱くなり感謝の気持ちを抱いた。
- ③リスペクト＝敬意 尊重（感謝、ありがとう、心を込める）

…オリンピックは競技者だけでなく、観客、スタッフ等多くの人が参加してはじめて成立する。自分を支えてくれた人への感謝の気持ちでいっぱいだった。何事も当たり前と思わず、「有難いこと＝奇跡」として常に感謝の気持ちを忘れてはいけない。



### 3. グループワーク 等



発問： 運動の時間で感じたことを思い出しながら、皆にとつてのオリンピックバリューを考える（個人で考える時間を設けてから、グループで意見をまとめる）。

発表： 各グループの代表者から、失敗から学び工夫して成功につなげること＝エクセレンス、各自が自分の役割に責任を持つこと＝フレンドシップ、他の人の良いところを見習うなどの意見が発表された。

### 4. まとめ 等



・この授業で学習した、オリンピックバリューの考え方が、生徒自身の日常生活の中にもあること、今後の生活に活かせるものであることを確認。

・東京2020オリンピック競技大会にも触れ、この授業をきっかけに何等かの形で関わってもらいたいと伝え授業を終了。





■ 集 合 写 真



■ 記 念 品 贈 呈



■ 証 明 書 贈 呈

